

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例3

< 事例概要 >

(胃瘻造設)

・ 80 歳代、インフルエンザ感染後、痙攣重責、慢性心不全で当該医療機関に入院中の患者。抗血小板薬内服中。BMI 18.4 kg/m²。血清アルブミン値2.9 g/dL。

・ 嚥下訓練が長期となり、介護施設入所のため、当該医療機関の他診療科より胃瘻造設を依頼。術前にCT検査を実施。抗血小板薬の休薬は不明。

・ 経皮内視鏡的胃瘻造設術で、バルーン型カテーテルを使用し、右季肋部に造設。

・ 手術当日のCT検査で、横行結腸の穿通が疑われ救急搬送。緊急手術で、胃瘻カテーテルが横行結腸を穿通、胃内に留置していたため横行結腸を縫合したが、術後 1 日目に死亡。

・ 死因は、急性循環不全（疑い）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。